

令和4年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図るセメスター制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動の充実を図る。</p>	<p>①1)生徒の主体的な学習意欲を引き出す総合学科の教育課程を整備し、効果的な履修指導を行う。</p> <p>①2)1人1台端末に合うICTを活用した授業、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業、指導と評価の一体化を組織的に推進する。</p> <p>②推進体制や支援策の工夫・改善を行い、課題研究を充実させる。次の年次への共有体制をつくる。</p>	<p>①1)年次進行型セメスター制教育課程編成に係る履修指導の改善を行う。新学習指導要領の年次進行による実施に伴い、次年度以降の新・旧教育課程の異学年履修講座の履修管理のシステムを構築する。</p> <p>①2)新学習指導要領の骨子である指導と評価の一体化について組織的に研究する。1人1台端末に合うICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」に資する授業の実践や研修を進め、成果を共有する。さらに課題研究等において課題設定力・課題解決力やプレゼンテーション能力等を高め、探究活動の充実を図る。</p> <p>②上級学校等との連携を通して、探究活動のPDCAサイクルを回す。課題研究の担当間や年次の職員間での定期的な情報共有による工夫・改善を通して取組を充実させる。</p>	<p>①1)多様な進路希望の実現につながる年次進行型セメスター制教育課程を編成し、効果的に運用することができたか。旧教育課程の異学年履修講座の履修管理のシステムを構築できたか。</p> <p>①2)指導と評価の一体化について組織的に研究することができたか。1人1台端末に合うICTを活用した授業実践研究が進んだか。（授業での1人1台端末やICT活用状況、校内研修や研究授業、研究協議の開催回数など）</p> <p>②生徒の探究活動に関するPDCAサイクルを効果的に回し、生徒の意識の変化や行動の変容が見られたか。次の年次につながる推進体制を築くことができたか。</p>
生徒指導・支援	<p>①部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。</p> <p>②専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①部活動・委員会活動・学校行事等、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性・協働性を高める。</p> <p>②教育相談体制を組織的に運用し、個に応じた効果的な支援を行う。日常の生活指導を通じ、生徒の規範意識を高める。</p> <p>③外国につながるのがある生徒の指導・支援を校内組織や外部人材を活用し整備する。</p>	<p>①部活動紹介や体験入部等のプログラム、入学希望者への広報活動等を工夫する。部活動・委員会を活用した学校行事の運営、藤沢市等と連携した地域活動への参加等、部活動生徒が活躍できる機会を増やす。</p> <p>②教育相談コーディネーター、SC・SSWとの情報交換を密にする。生徒の情報を共有し、コア会議・ケース会議を活用し、個に応じた組織的な支援を行う。</p> <p>③WGの活動を活性化し、外部人材の活用も含め、支援策の工夫・改善を定期的に行う。</p>	<p>①部活動への入部率、定着率を高めることができたか。入学希望者への広報活動を工夫することができたか。部活動生徒が活躍できる機会を増やすことができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーターとSC・SSWと定期的に情報交換することができたか。コア会議・ケース会議を活用し、組織的により具体的な支援をすることができたか。</p> <p>③生徒の支援の在り方を工夫・改善することができたか。支援体制を整えることができたか。（WG会議の開催回数）</p>
進路指導・支援	<p>生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力や態度を育む指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①「産業社会と人間」、各年次での取組等、キャリアガイダンスに係る教育活動の充実・改善を進める。職員の進路指導力の向上を図り、情報・支援策等を次の年次へ繋ぐ体制をつくる。</p> <p>②学校外での体験や学びの機会へ、より多くの生徒を参加させる。</p>	<p>①1)「産業社会と人間」においてICTの活用と生徒が主体的に取り組む活動の充実を図る。</p> <p>①2)外部テストの活用のための研修会を設定し、教員の指導力向上を図る。</p> <p>②1)「課題研究」や「産業社会と人間」において外部の教育力を活用する場面を増やす。</p> <p>②2)夏季連携講座等、学校外での学びの意義、過去の取組事例を生徒へ効果的に伝える等、オリエンテーション内容を充実させ、より多くの生徒を参加させる。</p>	<p>①1)生徒による授業評価等において関係する項目の回答状況。また、授業においてICTを活用する場面を増やせたか。</p> <p>①2)教員研修会を設定し進路面談等で活用することができたか。</p> <p>②1)各取組における、外部連携の件数（人数）を増やすことができたか。</p> <p>②2)学校外での体験や学びの機会に、参加する生徒の数を増やすことができたか。</p>
地域等との協働	<p>地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校運営協議会の活動をより活性化させ、学校経営力を高める。</p> <p>②地域人材を活用した授業実践等を通じ、教育活動を充実させる。地域行事などボランティア活動を通じて地域社会へ貢献する。</p> <p>③学校の魅力と特色を積極的に発信する。</p>	<p>①学校運営協議会の活動をより活性化させ、取組内容を学校内外に発信等し、学校経営力の向上に繋げる。</p> <p>②部活動や委員会の生徒を地域行事やボランティア活動へ参加させ、生徒の活動を充実させる。</p> <p>③学校紹介の動画の配信を含め学校の魅力や特色をホームページ等で定期的に発信する。</p>	<p>①学校運営協議の取組内容を学校内外に発信する等の工夫をし、学校経営力を高めることができたか。</p> <p>②部活動・委員会ごとに地域行事やボランティア活動に参加する生徒が増え、生徒の活動を充実させることができたか。</p> <p>③動画配信を含めホームページを充実させることができたか。（月3回以上の更新）</p>
学校管理・学校運営	<p>職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。</p> <p>働き方改革を推進するための職員の意識改革を図る。</p>	<p>①総合学科の教育資源を活用するとともに、指定研究を組織的に推進し、生徒に新たな学びを提供する。</p> <p>②外国につながるのがある生徒への支援体制の骨格を構築する。</p> <p>③安全を確保し、いのちを守る防災体制を点検・整備し、生徒の防災意識を向上させる。</p> <p>④研修会等を通して事故・不祥事ゼロを目指す。</p> <p>⑤職員からのアイデアや工夫で働き方改革を継続する。</p>	<p>①WGを中心となり、総合学科の教育資源を活用し、学校全体で指定研究を組織的に推進する。</p> <p>②WGを中心として外部人材と連携し、職員間の情報共有を密に行い、支援体制の骨格を構築する。</p> <p>③学校と地域が連携した防災訓練やDIG研修を実施し、防災教育を充実する。</p> <p>④事故・不祥事防止、職員の資質向上に向け、職員研修の充実、計画的な実施を行う。</p> <p>⑤職員からアイデアを募集や工夫を共有し、職員一人ひとりが働き方改革を進める。</p>	<p>①各指定研究の評価指標により適切に評価できたか。</p> <p>②定期的なWG会議の開催、外部人材との連携により、課題を整理し、支援体制の骨格を整えることができたか。</p> <p>③防災教育を充実させることができたか。生徒の防災意識を向上させることができたか。（アンケート）</p> <p>④職員の事故・不祥事を未然に防止することができたか。点検シートを引き続き活用し、資質向上が図られたか。</p> <p>⑤働き方の工夫を職場で実施し、より効果的な働き方を推進できたか。</p>